

令和 6 年度

北海道立総合研究機構
道南農業試験場年報

令和 7 年 6 月

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
農業研究本部 道南農業試験場

資料の取り扱い

本資料掲載の研究成績等については未公開のものであるため、複製、転載及び

引用に当たっては、必ず原著者の了承を得た上で利用して下さい。

目 次

I 概 要

1. 沿 革	1
2. 位置及び土壌	2
3. 面積及び利用区分	2
4. 機 構	2
5. 職 員	3
6. 歳入歳出決算額	4
7. 建 物	5
8. 新たに設置した主要施設及び備品	5

II 作 況

1. 気象概況	6
2. 当场作況	9

III 試験研究及び地域支援活動の概要

1. 生産技術グループ	11
2. 作物病虫グループ	11

IV 試験研究及び地域支援活動の課題名

1. 生産技術グループ	13
2. 作物病虫グループ	15
3. 地域農業技術支援会議の活動	16

V 試験研究成果の公表

1. 技術普及に移された成果	18
2. 論文、資料および刊行物	18

VI 研修及び技術支援

1. 研修の受け入れ	20
2. 技術支援	20
3. 参観・視察者対応	22

VII その他の活動

1. 職員研修	23
2. 主催事業等	23
3. 委員会活動	24
4. 場内研修	25
5. 表彰・資格	25
6. 外部委員会等への参加	26

VIII 自己点検

1. 令和5年度計画に係る項目別実績の自己点検結果	27
---------------------------	----

付表1. 作物標準栽培法の概要	28
-----------------	----

付表2. 土壌の理化学的特性	29
----------------	----

I 概要

1. 沿革

1) 戦前

道南農業試験場は、明治42年、亀田郡大野村（現在の北斗市）に北海道庁立渡島農事試験場（総面積9.85haの内、畑0.46ha、水田0.40ha）として開設された。翌43年には北海道拓殖計画に基づく農業試験機関の統合により国に移管され、北海道農事試験場渡島支場と改称、水稻、麦類及び豆類などの試験に着手した。

明治44年には果樹（りんご、なし類、おうとう、ぶどう及びもも）の栽培を開始した。さらに、大正7年からは水稻品種改良に純系分離育種法を取り入れるなど、道南地方の自然条件に適合する稲作、畑作及び園芸の試験研究を推し進めた。その間、水稻、大豆などで多くの優良品種を育成するとともに農業経営方式の確立に努め、地域農業の発展に貢献した。昭和17年には北海道農業試験場渡島支場と改称した。

2) 戦後

昭和25年、全国農業試験研究機関の整備統合により従来の機関は国立、道立に二分され、当時は道費支弁の北海道立農業試験場渡島支場となった。昭和28年、大野町字向野に用地3haを買収して果樹園を移設し、さらに昭和36年からは庁舎、調査室及び作業室等施設の整備拡充計画を推進した。

昭和39年、道立農業試験場の機構改革により北海道立道南農業試験場と改称した。昭和46年には、施設園芸の近代的推進の中核的役割を果たす農業者及び技術指導者などを養成する目的で施設園芸の研修施設としては道内最大のプラスチックハウス（約0.1ha）を設置した。さらに昭和56、57年にはコンピューター制御による環境制御温室と地温制御温室の完成を見ている。昭和62年には全国的な「農業試験研究情報システム」整備の一環として情報処理室を設置し、道立農業試験場各場間を結ぶ情報ネットワーク（HARIS）が整備された。その結果、各種農業情報や研究情報などの有効利用が促進されることとなった。

平成元年、完全自動化された花き省エネ栽培温室を設置し、同3年には植物馴化装置（3連グロースキャビネット）を導入し、翌年には米の食味分析計を整備した。なお、果樹試験は、研究基本計画に基づく機構改正により平成4年3月31日をもって道立中央農業試験場に統合された。

平成6年、前年の大冷害の経験から冷水田の整備が行われ、水稻品種の耐冷性強化のための新たな施設が完成した。平成7年には、庁舎の増改築が行われ高精度実験室や50人規模の会議室が新設されたほか、専技室に技術相談室が整備された。

平成12年、水稻優良品種開発施設として稲の世代促進を目的とした年3期作が可能な水田温室と管理棟が完成し、13年から本格的な品種開発試験を開始した。また、平成12年の研究科の再編統合に伴い、機動的な研究体制とするために、園芸科と土壌肥料科が統合され、「園芸環境科」が誕生した。さらに、専門技術員室は専技と研究職の次長からなる、研究成果の実証・体系化を行う「技術普及部」に改組され、研究部（園芸環境科、病虫科、作物科、管理科）とあわせて2部体制が敷かれた。

その後、本道農業を巡る情勢の変化に伴い平成18年より道南圏（渡島、檜山）における園芸を主とした地域対応研究に特化した場と位置づけられ、水稻、いちごの育種担当から品種開発支援場となった。同時に組織の再編も行われ、研究部は、作物、栽培環境、病虫および管理科の4科となった。一方、技術普及部には部長以下、次長、主任普及指導員（旧主任専技）、地域支援の主査が配置された。

3) 独法後

平成22年4月、道立試験研究機関の地方独立行政法人化に伴い、これまでの北海道立道南農業試験場は、地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部道南農業試験場に改組された。研究部は地域技術、生産環境グループの2グループ制となり、2研究主幹ならびに主査（作物）、主査（栽培環境）、主査（病虫）および主査（地域支援）が配置された。普及指導員は、北海道農政部生産振興局技術普及課の道南農試在勤技術普及室として配置されることになり、上席普及指導員、主任普及指導員および主査（地域支援）の3名体制となった。旧技術普及部の普及センター等関係機関に対する地域支援業務は、技術普及室の3普及指導員（30年より上席及び主任の2名）および地域技術グループ研究主幹、主査（地域支援）により対応することとなった。28年には、新しく育苗ガラス温室を整備した。令和2年度の機構改革により、研究部が生産技術グループと作物病虫グループに再編された。

2. 位置及び土壌

当該（北斗市本町 680 番地）は、北緯 41° 53′、東経 140° 39′、海拔 25m に位置し、JR 函館本線新函館北斗駅から南に 3 km、函館市の北約 20 km のところにある。地形は平坦で、土壌は褐色低地土（河成沖積）に分類される。水田土壌は腐植を含む埴壌土（減水深 30～40mm/日）である。40～50cm 以下は砂礫層となっている。作土の粘着性、可塑性がやや強く、硬度（ち密度）は約 18mm、鋤床層で約 22mm である。斑鉄は作土でやや

少なく、鋤床層でやや多い。マンガン斑は作土、鋤床層ともに観察されない。なお、作土深は 12cm 余、鋤床層は 8～15cm でやや厚い。
 一方、畑地では表層に腐植を含む壤土が分布しており、次層は壤土～砂壤土、50～70cm 以下は礫にすこぶる富む砂壤土～礫層となっている。構造は不鮮明であるが、孔隙がやや発達し、保水性は中庸で、粘着性、可塑性がやや強い。全般に膨軟で礫層の深い所まで根が分布している。

3. 面積及び利用区分

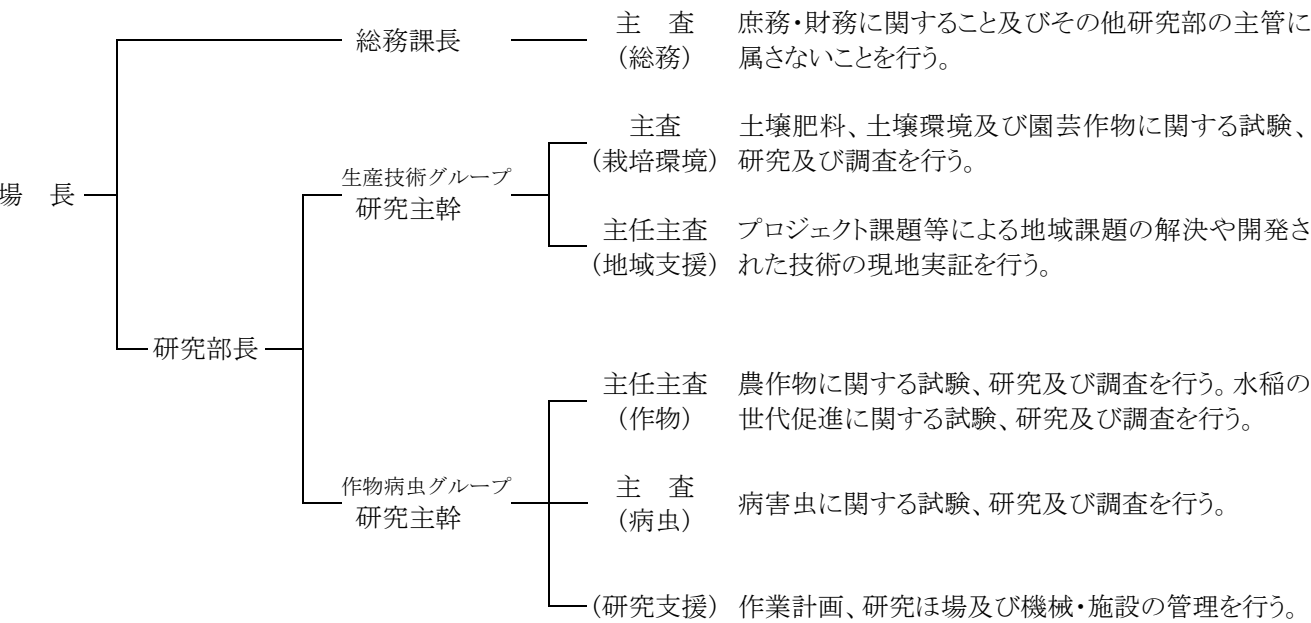
総面積 127,202 m²

区 分	面 積	区 分	面 積
構 内 建 物 用 地	20,372m ²	試 験 ほ 場 （ 畑 ）	37,290m ²
道 路	10,530	〃 （緑地管理）	24,715
防 風 林	2,170	そ の 他	17,125
試 験 ほ 場 （ 田 ）	15,000	計	127,202

※借地も含む。

4. 機 構

（令和 7 年 3 月 31 日現在）



（参考）
 技術普及室（北海道農政部技術普及課、道南農試に常駐）
 上席普及指導員－主任普及指導員

5. 職員

1) 職員数（令和7年3月31日現在）

	場長	研究部長	総務課	生産技術 グループ	作物病虫 グループ	計
研 究 職		1		6	6	13
行 政 職	1		4			5
研究支援職					3	3
計	1	1	4	6	9	21

2) 現在員（令和7年3月31日現在）

職 名	氏 名	職 名	氏 名
場 長	藤田眞美子	[作物病虫グループ]	
[総務課]		研究主幹	三澤 知央
総務課長	森田 哲也	主任主査(作物)	千田 圭一
主査(総務)	三上 幸規	主査(病虫)	青木 元彦
技 師	石川 大樹	研究主査	池田 幸子
主 任	小原 広昭	研究主任	丸田 泰史
[研究部]		研究職員	松原 慧
研究部長	三好 智明	専門主任	佐々木盛久
[生産技術グループ]		専門主任	竹内 達哉
研究主幹	藤倉 潤治	主 任	岩崎 麻美
主任主査(地域支援)	乙部 裕一		
主 査(栽培環境)	江原 清	[技術普及室]	
研究職員	菅原 魁人	上席普及指導員	李家 眞理
研究職員	田村 救	主任普及指導員	後藤 昌人
研究職員	溝手 桃花		

※技術普及室職員の所属は、北海道農政部生産振興局技術普及課（道南農業試験場駐在）

3) 転入者及び新規採用者

職 名	氏 名	発令月日	備 考
総務課長	森田 哲也	6. 4. 1	道総務部法人団体課から
生産技術グループ 研究職員	溝手 桃花	6. 4. 1	新規採用
技術普及室 主任普及指導員	後藤 昌人	6. 4. 1	檜山農改檜山北部支所から

4) 転出者及び退職者

職 名	氏 名	発令月日	備 考
場 長	藤田 眞美子	7. 3. 31	道農政部（北海道農業公社派遣）へ
生産技術グループ 研究主幹	藤倉 潤治	7. 3. 31	中央農試加工利用部へ
生産技術グループ 主任主査(地域支援)	乙部 裕一	7. 3. 31	退 職
作物病虫グループ 主任主査(作物)	千田 圭一	7. 3. 31	中央農試遺伝資源部へ
作物病虫グループ 研究職員	松原 慧	7. 3. 31	退 職
技術普及室 上席普及指導員	李家 眞理	7. 3. 31	上川農業改良普及センターへ
技術普及室 主任普及指導員	後藤 昌人	7. 3. 31	花・野菜技術センターへ

6. 歳入歳出決算額

1) 歳入決算額

(単位：円)

予 算 科 目	決 算 額	備 考
農産物売払収入	465,680	
不用品売払収入	169,576	
法人財産使用料等	220,173	
施設等使用料	4,150	
その他雑収入	4,994	
国庫受託研究収入	309,000	
道受託研究収入	3,158,964	
その他受託研究収入	6,572,000	
科研費収入	793,000	
合 計	11,697,537	

2) 歳出決算額

(単位：円)

予 算 科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
業 務 費			
重点研究費	2,850,000	2,850,000	
経常研究費	10,610,000	10,222,664	
技術普及指導費	222,000	222,000	
研究用備品整備費	1,925,000	1,925,000	
維持管理経費（研究）	949,000	949,000	
依頼試験費	3,800	3,800	
一般管理費			
維持管理経費	28,220,000	28,220,000	
運営経費	22,820,000	22,609,484	
一般			
研究関連維持管理経費	588,000	588,000	
受託研究等経費			
国庫受託研究費	309,000	309,000	
道受託研究費	3,158,964	3,158,964	
その他受託研究費	6,148,390	6,148,390	
科学研究費補助金	132,000	132,000	
合 計	77,936,154	77,338,302	

7. 建 物

1) 公用財産

	本 町			向 野		
	棟数	面積 (㎡)	建築年次	棟数	面積 (㎡)	建築年次
庁 舎	1	969.12	S36. S54. S62. H7			
記念館	1	132.23	T 8			
ポンプ室	1	9.18	S44. H23			
調査室	1	165.25	S44			
物品庫	1	66.11	S45			
燃料庫	1	8.30	S45			
ポンプ小屋	1	3.31	S45			
便所	1	9.72	S26			
ガス格納庫	1	4.95	S49			
環境制御温室	1	534.15	S56. S57			
総合倉庫	1	133.85	S58			
管理科兼土壌実験室	1	197.35	S59. S61			
車庫	1	100.75	S60			
果樹品質調査室				1	66.42	S63
花き省エネ栽培温室	1	655.92	H 1			
農機具格納庫	1	350.00	H 2			
作業室	1	145.74	H 3			
昆虫飼育実験室	1	106.92	H 4			
土壌病害虫総合実験温室	1	275.04	H 5			
便所	1	8.28	H5. R5			
揚水舎	1	3.31	H 7			
ポンプ室				1	2.25	S42
農業資材倉庫	1	243.00	H 9			
水田温室	1	2,356.40	H10. H12			
運搬車用車庫	1	86.49	H15			
育苗ガラス温室	1	252.00	H28			
トラクター車庫	1	84.95	H29			
計	25	6,901.69		2	68.67	

8. 新たに設置した主要施設及び備品

(単価 50 万円以上、単位：円)

品 名	規 格	数量	金 額	備 考
冷凍機付きインキュベーター	MIR-254-PJ	2	913,000	
除雪機	YT1390XR	1	907,450	
滅菌器 (オートクレーブ)	HVE-50LB	1	590,810	
分光光度計	UH5210	1	1,925,000	
デジタルカラー複写機	IR-ADVC5840F	1	995,500	

Ⅱ 作 況

1. 気象概況

根雪始は平年に比べ 25 日遅く、根雪終は 27 日早く、積雪期間は平年より 51 日短かった。また、耕鋤始は平年並であった。晩霜は 17 日早く、無霜期間は 15 日長かった。本年の初霜は 10 月 21 日で平年より 2 日早かった。

4 月：平均気温は 2.3℃、最高気温は 2.9℃、最低気温は 2.5℃高かった。降水量は平年より 36.6mm 少なく、平年の 43%であった。日照時間は 18.6 時間多く、同 110%であった。

5 月：平均気温は 0.6℃、最高気温は 0.6℃、最低気温は平年並であった。降水量は平年より 33.4mm 多く、平年の 151%であった。日照時間は 1.9 時間多く、同 101%であった。

6 月：平均気温は 1.6℃、最高気温は 1.8℃、最低気温は 1.1℃高かった。降水量は平年より 46.9mm 少なく、平年の 60%であった。日照時間は 12.5 時間多く、同 107%であった。

7 月：平均気温は 1.4℃、最高気温は 1.6℃、最低気温は 1.3℃高かった。降水量は平年より 58.0mm 多く、平年の 165%であった。日照時間は 13.5 時間多く、同 110%であった。

8 月：平均気温は 2.2℃、最高気温は 2.2℃、最低気

温は 2.4℃高かった。降水量は平年より 24.5mm 多く、平年の 115%であった。日照時間は 9.1 時間少なく、同 93%であった。

9 月：平均気温は 1.2℃、最高気温は 1.8℃、最低気温は平年並であった。降水量は平年より 98.8mm 少なく、平年の 20%であった。日照時間は 41.0 時間多く、同 125%であった。

10 月：平均気温は 2.0℃、最低気温は 2.2℃、最高気温は 1.7℃高かった。降水量は平年より 37.9mm 多く、平年の 137%であった。日照時間は 1.4 時間多く、同 101%であった。

農耕期間中(5～9 月)の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下の通りである。

気温：月別では 5～9 月の全期間高かった。なお旬別では 5 月下旬、6 月上旬は平年より低く、5 月上旬が平年並で、他の旬は全て平年より高かった。この期間の日平均気温の積算値は 3,031℃であった(平年差+211℃、平年比 107%)。

降水量：5、7、8 月は平年より多く、6、9 月は少なかった。この期間の降水量の積算は 524mm であった(平年差-30mm、平年比 95%)。

日照時間：6、7、9 月は平年より多く、5 月は平年並で、8 月は少なかった。この期間の日照時間の積算は 879 時間であった(平年差+60 時間、平年比 107%)。

季節表および農耕期間の平均気温、降水量、日照時間の積算値

項目 年次	前年		本年							
	初 霜 (年月日)	根雪始 (年月日)	根雪終 (年月日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年月日)	耕鋤始 (年月日)	晩 霜 (年月日)	初 霜 (年月日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年月日)
本年	R5.11.05	R6.1.07	R6.2.13	38	R6.4.09	R6.4.08	R6.4.10	R6.10.21	194	R6.11.07
平年	10.21	12.13	3.11	89	4.17	4.08	4.27	10.23	179	11.10
比較	15	25	▲ 27	▲ 51	▲ 8	0	▲ 17	▲ 2	15	▲ 3

項目 期間		積算気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (時間)
5月上旬 ～ 9月下旬	本年	3031	524	879
	平年	2820	553	819
	比較	211	▲30	60
	(%)	107	95	107

注 1) 農耕期間の積算値は北斗市のアメダス、耕鋤始は道南農試により、それ以外は函館地方气象台(函館市美原)の観測値である。晩霜は、函館地方气象台の気象データからの推定値である(最低気温が 1.3℃以下、最低気温起時に雨天の場合は除く)。

注 2) 平年値は前 10 か年の平均値である。ただし、晩霜については、令和元年(2019 年)までは、函館地方气象台の観測値であり、令和 2 年(2020 年)以降は推定値である。

注 3) 表中▲は「早」または「少」を示す。

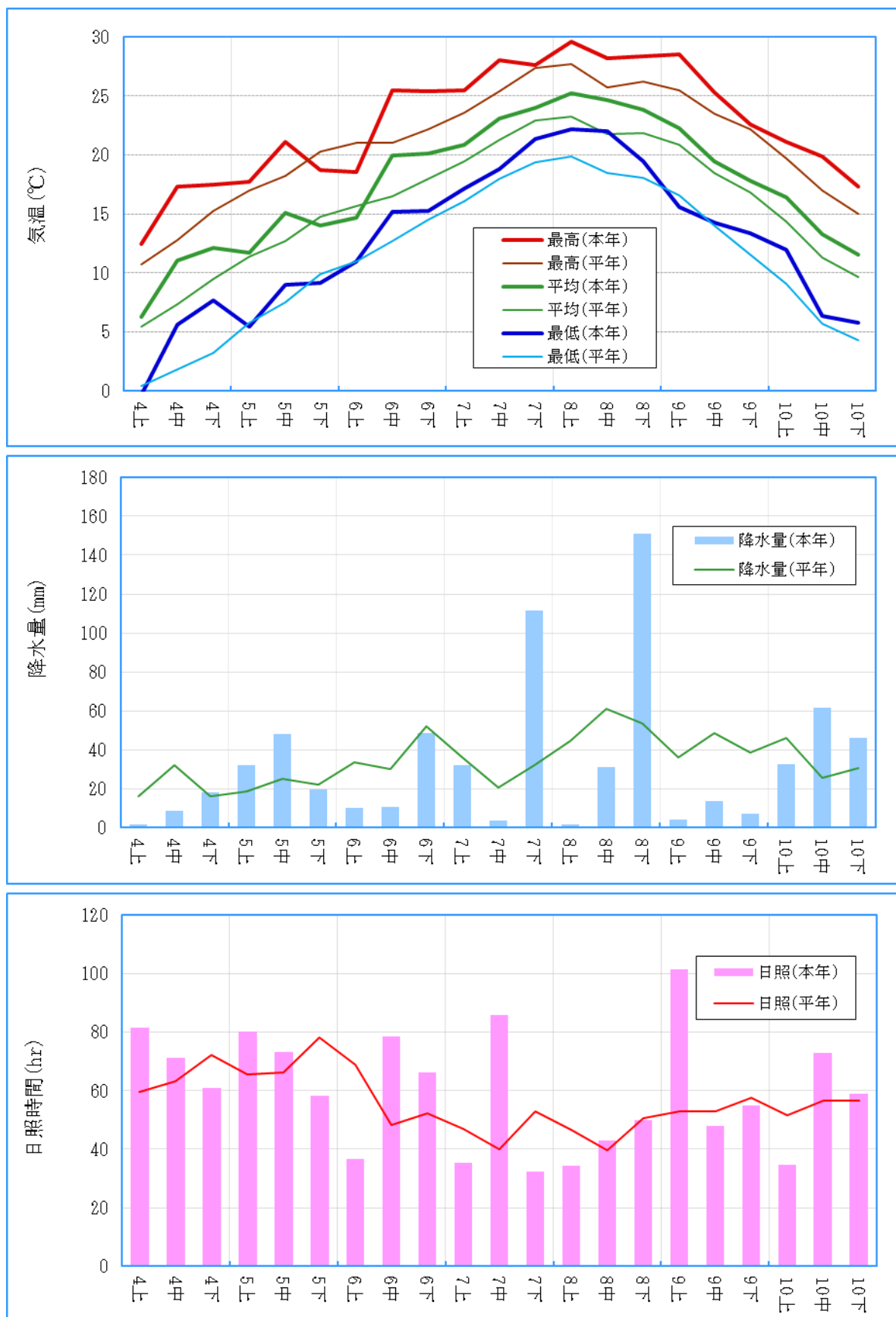
気象表（令和 6 年）

月	旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)				日照時間(hr)			
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	%	本年	平年	比較	%
4	上	6.3	5.5	0.8	12.5	10.7	1.8	-0.3	0.4	▲ 0.7	1.5	16.3	▲ 14.8	9	81.6	59.7	21.9	137
	中	11.1	7.4	3.7	17.3	12.8	4.5	5.6	1.8	3.8	8.5	32.1	▲ 23.6	26	71.1	63.4	7.7	112
	下	12.1	9.5	2.6	17.5	15.3	2.2	7.7	3.2	4.5	18.0	16.2	1.8	111	61.1	72.1	▲ 11.0	85
5	上	11.7	11.4	0.3	17.7	17.0	0.7	5.5	5.8	▲ 0.3	32.0	18.6	13.4	172	80.4	65.7	14.7	122
	中	15.1	12.7	2.4	21.1	18.2	2.9	9.0	7.5	1.5	48.0	25.2	22.8	190	73.2	66.2	7.0	111
	下	14.0	14.8	▲ 0.8	18.7	20.3	▲ 1.6	9.2	9.9	▲ 0.7	19.5	22.3	▲ 2.8	87	58.3	78.1	▲ 19.8	75
6	上	14.7	15.7	▲ 1.0	18.6	21.0	▲ 2.4	11.0	11.0	0.0	10.0	33.5	▲ 23.5	30	36.6	68.8	▲ 32.2	53
	中	20.0	16.5	3.5	25.5	21.0	4.5	15.2	12.7	2.5	10.5	30.4	▲ 19.9	35	78.7	48.2	30.5	163
	下	20.1	18.0	2.1	25.4	22.2	3.2	15.3	14.5	0.8	48.5	52.0	▲ 3.5	93	66.4	52.2	14.2	127
7	上	20.9	19.5	1.4	25.5	23.6	1.9	17.2	16.1	1.1	32.0	36.1	▲ 4.1	89	35.3	47.0	▲ 11.7	75
	中	23.1	21.3	1.8	28.0	25.4	2.6	18.8	18.0	0.8	3.5	20.9	▲ 17.4	17	85.9	40.1	45.8	214
	下	24.0	22.9	1.1	27.6	27.4	0.2	21.4	19.4	2.0	111.5	32.0	79.5	348	32.4	53.0	▲ 20.6	61
8	上	25.2	23.3	1.9	29.6	27.7	1.9	22.2	19.9	2.3	1.5	44.5	▲ 43.0	3	34.4	46.7	▲ 12.3	74
	中	24.7	21.8	2.9	28.2	25.7	2.5	22.0	18.5	3.5	31.0	61.1	▲ 30.1	51	43.1	39.5	3.6	109
	下	23.8	21.9	1.9	28.4	26.2	2.2	19.5	18.1	1.4	151.0	53.4	97.6	283	50.1	50.5	▲ 0.4	99
9	上	22.3	20.9	1.4	28.5	25.5	3.0	15.6	16.6	▲ 1.0	4.0	36.0	▲ 32.0	11	101.4	53.0	48.4	191
	中	19.5	18.5	1.0	25.3	23.5	1.8	14.3	14.0	0.3	13.5	48.8	▲ 35.3	28	48.0	52.8	▲ 4.8	91
	下	17.8	16.8	1.0	22.6	22.2	0.4	13.4	11.6	1.8	7.0	38.5	▲ 31.5	18	54.9	57.5	▲ 2.6	95
10	上	16.4	14.4	2.0	21.1	19.7	1.4	12.0	9.1	2.9	32.5	45.9	▲ 13.4	71	34.6	51.8	▲ 17.2	67
	中	13.3	11.3	2.0	19.9	17.0	2.9	6.4	5.7	0.7	61.5	25.6	35.9	240	72.9	56.7	16.2	129
	下	11.6	9.7	1.9	17.3	15.0	2.3	5.8	4.3	1.5	46.0	30.6	15.4	150	59.1	56.7	2.4	104
4月		9.8	7.5	2.3	15.8	12.9	2.9	4.3	1.8	2.5	28.0	64.6	▲ 36.6	43	213.8	195.2	18.6	110
5月		13.6	13.0	0.6	19.2	18.6	0.6	7.9	7.8	0.1	99.5	66.1	33.4	151	211.9	210.0	1.9	101
6月		18.3	16.7	1.6	23.2	21.4	1.8	13.8	12.7	1.1	69.0	115.9	▲ 46.9	60	181.7	169.2	12.5	107
7月		22.7	21.3	1.4	27.1	25.5	1.6	19.2	17.9	1.3	147.0	89.0	58.0	165	153.6	140.1	13.5	110
8月		24.5	22.3	2.2	28.7	26.5	2.2	21.2	18.8	2.4	183.5	159.0	24.5	115	127.6	136.7	▲ 9.1	93
9月		19.9	18.7	1.2	25.5	23.7	1.8	14.4	14.1	0.3	24.5	123.3	▲ 98.8	20	204.3	163.3	41.0	125
10月		13.7	11.7	2.0	19.4	17.2	2.2	8.0	6.3	1.7	140.0	102.1	37.9	137	166.6	165.2	1.4	101

注 1) 観測値は北斗市のアメダスデータを使用、平年値は前 10 か年による。

注 2) 表中▲印は「低」または「少」を示す。

気象図（令和6年）



2. 当场作況

水 稲 やや不良

播種は平年より1日遅い4月23日に行った。出芽までの日数は平年並で、出芽期は4月28日であった。育苗期間中、4月下旬は高温で寡照、5月上旬は平年並の気温で多照、5月中旬は高温で多照であり、全体として高温でやや多照であった。

移植は平年より1日遅い5月21日に行った。移植時の苗の形質において、草丈は平年より長く、葉数・茎数は平年より多く、地上部乾物重は平年を上回って重かった。苗の充実度を表す地上部乾物重/草丈の値も平年を上回っていた。5月下旬から6月上旬は低温で寡照に推移し、苗の活着および生育は遅れた。6月中旬は高温で多照に推移し、生育は回復した。6月20日時点では、草丈は平年より長く、葉数は平年並で、茎数は「ふっくりんこ」で平年よりやや少なく、「ななつぼし」でやや多く、2品種平均で茎数は平年並であった。幼穂形成期は「ふっくりんこ」「ななつぼし」とともに平年並であった。幼穂形成期後の7月上旬、中旬ともに高温であったため、生育は進み、止葉期は「ふっくりんこ」「ななつぼし」とともに、平年より3日早く、出穂期は「ななつぼし」「ふっくりんこ」とともに、平年より4日早かった。止葉葉数は「ふっくりんこ」で平年並、「ななつぼし」はやや多かった。7月下旬～9月上旬にかけて、高温に推移したため、登熟は早く進み、登熟日数は「ふっくりんこ」で2日短く、「ななつぼし」で4日短かった。8月23日以降、風雨により倒伏が生じた。成熟期は「ふっくりんこ」で6日、「ななつぼし」で平年より7日早かった。

「ふっくりんこ」は、稈長は平年並で、穂長はやや長かった。穂数は平年の105%と多く、一穂粒数は平年よりやや多く、稈実歩合は平年並であったことから、 m^2 当稈実粒数は110%と多かった。登熟歩合は平年より16.5ポイント低く、かなり低くなった。精玄米千粒重は平年より0.4g軽く、屑米歩合が平年より8.1ポイント高かったため、精玄米重は53.7kg/aであり、平年比90%と少なかった。

「ななつぼし」は、稈長は平年並で、穂長はやや長かった。穂数は多く、一穂粒数は平年並であり、稈実歩合は平年並であったことから、103%とやや多かった。登熟歩合は平年より8.4ポイント低かった。精玄米千粒重は平年より0.4g軽く、屑米歩合は平年より3.5ポイント高かった。精玄米重は62.2kg/aであり、平年比103%と平年よりやや多かった。

登熟前半(7月下旬～8月上旬)の日照不足と、登熟後半(8月下旬)の大雨による全面的な倒伏により登熟歩合が低下し、両品種とも平年より屑米歩合が高くなったと考えられる。

なお、検査等級は「ふっくりんこ」「ななつぼし」とともに平年並であった。なお、落等要因はともに整粒不足であった。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

生育及び収量調査成績(令和6年)

品 種 名 項 目 / 年 次		ふっくりんこ			ななつぼし		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
生 育 期 節	播種期 (月日)	4.23	4.22	1	4.23	4.22	1
	出芽期 (月日)	4.28	4.27	1	4.28	4.27	1
	移植期 (月日)	5.21	5.20	1	5.21	5.20	1
	幼穂形成期 (月日)	7.01	7.01	0	6.27	6.27	0
	止葉期 (月日)	7.14	7.17	▲ 3	7.12	7.15	▲ 3
	出穂期 (月日)	7.22	7.26	▲ 4	7.20	7.24	▲ 4
	成熟期 (月日)	9.09	9.15	▲ 6	9.02	9.09	▲ 7
	穂揃日数 (日)	3	7	▲ 4	3	6	▲ 3
	登熟日数 (日)	49	51	▲ 2	44	48	▲ 4
	生育日数 (日)	139	146	▲ 7	132	141	▲ 9
移 植 時	草丈 (cm)	15.8	13.4	2.4	14.8	13.1	1.7
	葉数 (枚)	3.8	3.3	0.5	3.8	3.3	0.5
	茎数 (本/個体)	1.67	1.28	0.39	1.40	1.06	0.34
	地上部乾物重 (g/100本)	3.72	2.72	1.00	3.86	2.62	1.24
	地上部乾物重/草丈	0.24	0.20	0.04	0.26	0.20	0.06
本 田 生 育	草丈 (cm)	6月20日 35.6	33.1	2.5	36.7	34.0	2.7
		7月20日 84.1	78.0	6.1	88.4	80.9	7.5
		8月20日 92.3	93.5	▲ 1.2	93.1	93.4	▲ 0.3
	葉数 (枚)	6月20日 7.6	7.7	▲ 0.1	7.6	7.9	▲ 0.3
		7月20日 10.8	10.6	0.2	10.9	10.5	0.4
		8月20日 10.8	10.7	0.1	10.9	10.6	0.3
	止葉葉数 (枚)	10.8	10.7	0.1	10.9	10.6	0.3
	茎数 (本/㎡)	6月20日 515	550	▲ 35	515	478	37
		7月20日 754	811	▲ 57	650	721	▲ 71
		8月20日 746	711	35	675	651	24
成 熟 期	稈長 (cm)	77.1	77.9	▲ 0.8	76.7	76.1	0.6
	穂長 (cm)	17.0	16.0	1.0	17.3	16.3	1.0
	穂数 (本/㎡)	739	703	36	669	647	22
収 量 構 成 要 素	一穂粒数 (粒)	50.1	47.3	2.8	50.7	51.2	▲ 0.5
	㎡当粒数 (×1000)	37.0	33.2	3.8	34.0	33.0	1.0
	稈実歩合 (%)	92.7	94.1	▲ 1.4	94.8	94.5	0.3
	㎡当稈実粒数 (×1000)	34.3	31.3	3.0	32.2	31.2	1.0
	同上平年比	110	100	10	103	100	3
	登熟歩合 (%)	68.6	85.1	▲ 16.5	73.2	81.6	▲ 8.4
	粒摺歩合 (%)	66.6	76.1	▲ 9.5	72.9	78.4	▲ 5.5
	屑米重 (kg/a)	10.1	5.0	5.1	5.8	3.2	2.6
	屑米歩合 (%)	15.8	7.7	8.1	8.5	5.0	3.5
	精玄米千粒重 (g)	22.3	22.7	▲ 0.4	21.3	21.7	▲ 0.4
収 量	わら重 (kg/a)	61.6	67.7	▲ 6.1	61.6	68.1	▲ 6.5
	精粒重 (kg/a)	80.6	78.5	2.1	85.3	77.0	8.3
	精玄米重 (kg/a)	53.7	59.7	▲ 6.0	62.2	60.4	1.8
	収量平年比 (%)	90	100	▲ 10	103	100	3
	玄米検査等級 (等)	2上	2上	—	1下	1下	—

注1) 平年値は前7年間の令和4年(2022年、最豊年)、平成30年(2018年、最凶年)を除く5年の平均値を用いた。

注2) 苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/㎡ (33cm×12cm)、1株3本植え。

注3) 本田にはN、P₂O₅、K₂O成分をそれぞれ7.5、9.1、6.5(kg/10a)施用した。

注4) 篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5) 登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

注6) 比較の▲印は「減」または「早」を示す。

Ⅲ 試験研究及び地域支援活動の概要

1. 生産技術グループ

〔栽培環境関連〕

栽培環境試験ではクリーン農業に係わる課題として、経常（各部）研究「園芸作物および水稻における脱プラスチック肥効調節型肥料施用技術の開発」に取り組み、スイートコーン、ねぎ、キャベツに対するプラスチック被覆によらない各種肥効調節型肥料の肥効特性を調査した。また本年度より受託研究「ピートモス施用によるハウス土壌の理化学性改善効果」に取り組み、ピートモス施用による土壌理化学性改善効果およびトマトに対する施用効果を検討した。

土壌調査関係では、経常研究「環境保全型有機質資源施用基準の設定調査（土壌機能実態モニタリング調査）」および受託（国庫）研究「農地土壌炭素貯留等基礎調査事業（農地管理実態調査、定点調査）」、「地力調査」において、厚沢部町の生産者ほ場4地区20地点の土壌調査およびアンケート調査を実施した。道受託研究では、「農業農村整備事業等に係る土壌調査」において畑地1地区および水田1地区の土壌調査等を実施し報告するとともに、場内に除礫圃場を設置し、施工の前後の土壌理化学性について調査を行い、報告した。また、資材試験（培土）について「ブロッコリーに対する育苗培土「軽量ポットエース」のセル育苗適応性」の試験を行い、農業試験会議（成績会議）で指導参考事項となった。

〔園芸関連〕

園芸試験では、重点研究「持続可能な施設園芸のための環境制御技術の高度化」において、アルストロメリアに対する環境制御技術の効果を検討した。経常研究「果実品質に優れた多収な春どりいちご品種の開発」において地域適応性検定を行った。さらに経常研究「北海道のさつまいも栽培における電熱線を利用した地温管理による高増殖率育苗法の確立」において、ウィルスフリーである市販ポット苗を利用して高い増殖率を確保するための育苗試験を開始した。

〔地域支援関連〕

新的技術導入による地域支援では施設園芸における統合環境制御盤の導入による低コスト・省力化技術の実証を行った。

2. 作物病虫グループ

〔作物関連〕

水稻の地域適応性検定試験（優決基本相当）では、市販用の「上育485号」（「ふっくりんこ」対照）は耐倒伏性、収量や粒厚、いもち病抵抗性、タンパク質含有率、玄米品質、炊飯外観、食味など複数の優点があることから、単年評価は「優る」、普及性を鑑みて、有望度は「やや有望」とし、「上育489号」（「ふっくりんこ」「きたくりん」対照）も耐倒伏性、収量、玄米品質や食味など複数の優点があることから、同様に単年評価は「優る」、有望度は「やや有望」とした。糯米「上育糯490号」（「きたふくもち」対照）は、耐倒伏性、葉いもち抵抗性、炊飯米外観などに優れるが、収量は並で、一穂粒数や検査等級が劣るため、単年評価、有望度とも「並」とした。直播用の「空育198号」（「えみまる」「大地の星」対照）は、本年は圃場全体の苗立ち不良のため参考成績とした。醸造用（「吟風」標準）の「空育酒200号（北沢）」は千粒重や粒厚は優るが、検査等級や穂いもち抵抗性が劣ることから単年評価は「並」、有望度は累年の倒伏程度の大きさや等級検査が悪いことから「やや劣る」とした。

新資材の実用化試験では、水稻除草剤6剤の試験を実施した。本年度は11剤が指導参考事項となり、うち道南農試供試は9剤で、本年度供試は3剤であった。

畑作物の地域適応性検定試験（優決基本相当）は、大豆は難裂莢性を有する白目中生の「十育282号」（「トヨムスメ」対照）とダイズシストセンチュウレース3抵抗性を持つ黒大豆「十育281号」（「いわいくろ」対照）を供試した。「十育282号」の子実重は「トヨムスメ」並で、裂皮はやや少なかったが、百粒重が軽いことから単年評価は「並」、有望度は「やや劣る」。「十育281号」は多収でダイズシストセンチュウ抵抗性も有していることから単年評価、有望度とも「やや有望」。小豆は、コンバイン収穫適性が期待できる中生普通小豆「十育187号」（「きたひまり」「エリモ167」対照）と大納言小豆「十育188号」（「とよみ大納言」「ほまれ大納言」対照）を供試した。「十育187号」は多収で粒が大きく検査等級も高いため、単年評価は「やや優る」、有望度は「再検討」。「十育188号」は多収で検査等級が高いため、単年評価は「やや優る」としたが、百粒重がやや軽いことから有望度は「再検討」。

[病虫関連]

クリーン農業・有機農業に関する課題として経常（各部）研究「有機栽培を志向する醸造用ぶどうにおける重要害虫に対する被害抑制技術の開発」、「合成超音波によるチョウ目害虫防除技術の確立」、公募型（科研費）「捕食者コウモリとの相互作用を活用した植物保護」、公募型（その他）「北海道の小豆におけるマメノメイガ緊急防除対策」を実施した。

農作物病虫害診断試験では合計 42 件の診断依頼があった。

病虫害発生予察事業では農試定点ほにおける各作物（水稻、ばれいしょ、キャベツ）の主要病虫害（斑点米カメムシ、コナガ、いもち病等）の発生状況を調査し、結果を病虫害発生予察情報として提供した。

新農業資材試験では殺虫剤 7 剤、殺菌剤 7 剤の効果試験を実施し、殺虫剤 5 剤、殺菌剤 3 剤が指導参考事項となった。

Ⅳ 試験研究及び地域支援活動の課題名

1. 生産技術グループ

〔栽培環境関連〕

1) ピートモス施用によるハウス土壌の理化学性改善効果 (令和 6～8 年、受託（民間）)

目 的：ピートモス施用による土壌理化学性改善効果を明らかにするとともに、トマトに対する施用効果を検討する。

2) 環境保全型有機質資源施用基準の設定調査

①土壌機能実態モニタリング調査

(平成 11 年～継続、經常、中央・上川・十勝・酪農・北見と分担)

目 的：北海道の耕地土壌の理化学性の実態、変化の方向および土壌管理のための留意点を明らかにし、適正な管理および土壌肥沃度の維持に役立てる。

3) 農作物の病害虫診断試験

①生理障害診断 (昭和 50 年～継続、經常)

目 的：農業改良普及センター、技術普及室などを通して依頼される農作物の生理障害などを迅速に診断し、適切な指示を行うことによって被害を最小限にとどめる。

4) 園芸作物および水稲における脱プラスチック肥効調節型肥料施用技術の開発

(令和 5～7 年、經常（各部）、中央と共同)

目 的：園芸作物および水稲において、被覆肥料に頼らないクリーン農業を推進するため、肥効調節型肥料等の代替資材を用いた省力・安定生産を可能とする施肥技術を開発する。

5) 道営農業農村整備事業等に係る土壌調査

(昭和 40 年～継続、道受託、中央・上川・十勝・酪農・北見・花野と分担)

目 的：道営農業農村整備事業における水田、畑地の土地改良事業の計画地区での適正な土地改良方策を実施するための指針を示す。

6) 農地土壌炭素貯留等基礎調査事業（農地管理実態調査） (令和 3～5 年、国庫受託、中央・上川・十勝・酪農・北見と分担)

目 的：全国の農耕地における土壌炭素の貯留量と営農管理による変動を明らかにする一環として、北海道の農耕地で調査を行う。

〔園芸関連〕

7) 北海道のさつまいも栽培における電熱線を利用した地温管理による高増殖率育苗法の確立 (令和 6～8 年、經常)

目 的：ポット苗および種芋を用いて電熱線を利用した地温管理により、ウイルスフリー切苗直接定植より種苗コストを約 60～80%削減可能とする増殖法を開発する。

8) 果実品質に優れ多収な春どりいちご品種の開発 (令和 4～5 年、經常、花野・上川と共同)

目 的：「ゆきらら」並の果実品質を有する多収品種を開発する。

9) 持続可能な施設園芸のための環境制御技術の高度化 (令和 4～6 年、重点、花野・上川・北総研・工試と共同)

目 的：花きの加温作型で労働生産性向上と生産物当たり燃料消費量が 3 割削減する環境制御技術を確立する。

〔地域支援関連〕

10) 革新的技術導入による地域支援

(1) 施設園芸における統合環境制御盤の導入促進

(令和 6～7 年、經常（各部）)

目 的：七飯町の花き生産者において、光合成促進（炭酸ガス発生）装置、自動換気システム（側窓開閉装置）等の使用実態とその効果を評価し、統合環境制御盤の導入を促進する。

11) 普及センターの支援要請に対する対応

(1) 水田フル活用における土壌物理性改善技術の確立に向けた調査と結果解析の支援

a 担当：生産技術 G 乙部裕一

b 対象：渡島農業改良普及センター

c 内容：集中管理孔の管理法研修対応、輪作プロジェクトセミナー支援（北斗市）

(2) 夏秋どりトマトの養液栽培技術確立支援

- a 担当：生産技術 G 乙部裕一、菅原魁人
- b 対象：渡島農業改良普及センター園芸担当者
- c 内容：アルスプラウトの設定方法助言、現地ほ場調査支援、制御盤及びかん水タイマーの設定方法の助言指導、セミナー成果集作成の助言

(3) 良食味米安定生産に向けた土壌窒素分析支援および水稲栽培技術等への情報提供

- a 担当：生産技術 G 乙部裕一
- b 対象：渡島農業改良普及センター水稲担当者
- c 内容：水田土壌のアンモニア態窒素の測定指導

(4) 苗立ち本数の適正化に向けたは種量の検討とカルパーコーティング省略によるコスト削減支援

- a 担当：作物病虫 G 丸田泰史
- b 対象：渡島農業改良普及センター水稲担当者
- c 内容：は種量・カルパー粉衣等試験の支援、試験ほの出芽状況調査及び調査結果に係る支援、生育状況調査対応、収量調査支援

(5) トマトの高温障害対策支援

- a 担当：生産技術 G 乙部裕一
- b 対象：渡島農業改良普及センター
- c 内容：生育調査の方法、バイオスティミュラント資材の効果確認に関する考え方の助言

(6) 花きの安定生産に向けた技術支援

- a 担当：生産技術 G 菅原魁人、溝手桃花
- b 対象：渡島農業改良普及センター
- c 内容：アルスプラウト D I Y 制御盤作成支援、アルストロメリア細霧冷房、炭酸ガス施用に係る調査結果とりまとめ支援

(7) にらの株養成時における生育判断手法に係る支援

- a 担当：生産技術 G 乙部裕一
- b 対象：渡島農業改良普及センター
- c 内容：昨年度取組経過確認、今年度の生育調査実施に係る協議、現地調査支援、にら根量調査支援

(8) 道南地区の子実用とうもろこしのアワノメイガ防除基準・方法の確立

- a 担当：作物病虫 G 青木元彦、松原慧
- b 対象：渡島農業改良普及センター
- c 内容：現地ほ場の被害状況確認、アワノメイガの防除時期、薬剤に関する情報提供、防除指導上の問題点作成に係る助言、収穫中及び収穫後のほ場確認、今後のほ場管理並びに次年度の防除対策への助言、子実コーン大関牧場利用状況聞き取り

(9) 管内園芸部会部会研修に係る支援

- a 担当：作物病虫 G 青木元彦

- b 対象：渡島農業改良普及センター
- c 内容：道南の園芸作物における主要害虫の生態と防除について講義

(10) 食用ばれいしょ早期発芽対策に係る調査支援

- a 担当：生産技術 G 乙部裕一
- b 対象：檜山農業改良普及センター
- c 内容：ばれいしょ萌芽に関する資料提供、収穫調査支援、ロガー回収、糖含量測定等に係る支援

(11) 管内園芸部会の調査研究に係る支援

- a 担当：作物病虫 G 三澤知央
- b 対象：渡島農業改良普及センター
- c 内容：ブロッコリー黒すす病薬剤防除試験設計案について助言、初発確認方法及び耕種的防除法の講義、黒すす病発病葉サンプリング・顕微鏡での検鏡の実演および助言、調査基準の情報提供、黒すす病防除試験ほ状況確認、発病調査の方法の助言、黒すす病防除対策協議、試験成績検討

(12) 畑作・露地野菜ほ場の微量要素含量のスクリーニングと欠乏ほ場における改善対策支援

- a 担当：生産技術 G 乙部裕一
- b 対象：檜山農業改良普及センター
- c 内容：銅、亜鉛土壌分析結果送付、微量要素資材施用試験に係る助言

(13) 「紅金時（喜よ豆）」の収量性向上、安定生産に向けた技術対策への支援

- a 担当：研究部長 三好智明、生産技術 G 乙部裕一
- b 対象：檜山農業改良普及センター
- c 内容：今年度の栽培に関する打合せ、ほ場確認、土壌採取、土壌分析結果報告と酸度矯正に係る提案、生育状況確認、今後の栽培管理・次年度種子生産に向けた助言、喜よ豆および道内在来種の特性についての情報提供、次年度種子生産に向けた助言

(14) 醸造用ぶどう欧州種における晩腐病等防除対策への支援

- a 担当：作物病虫 G 三澤知央、池田幸子
- b 対象：檜山農業改良普及センター
- c 内容：奥尻ワイナリーほ場の晩腐病について、現地で支援要請実施、IC ボルドー66D 散布の助言

(15) 潮トマト栽培における障害果低減、正品（糖度 8 以上）増収技術確立支援

- a 担当：生産技術 G 乙部裕一
- b 対象：檜山農業改良普及センター檜山北部支所
- c 内容：現地生産者栽培管理、せたな町農業センター栽培支援

(16) 子実コーンサイレーシ調製方法に係る支援

- a 担当：生産技術 G 乙部裕一
- b 対象：檜山農業改良普及センター檜山北部支所
- c 内容：作付け予定ほ場 2 筆の土壌断面調査を実施、収穫終了後のほ場確認、子実コーン粉碎・樽詰め作業立ち会い、収穫終了後土壌断面調査、土壌採取

12) 地域農業技術センター連絡会議に対する支援

- 目的：道南地域における農業生産の振興を図るため、檜山管内の町立農業技術センターの実務者を中心にした農業関連技術の情報交換を支援する。
- 日時：令和 7 年 3 月 31 日（総会、書面開催）

2. 作物病虫グループ

〔水稻新品種育成試験関連〕

1) 「日本一の米どころ北海道」の実現へ向けた水稻新品種の開発促進

（令和 2～6 年、經常、中央・上川と共同）

ア 世代促進

目的：水稻品種開発において、用途に応じた品種を迅速に提供するため、品種育成期間を短縮させる。

イ 地域適応性試験

（系統適応性検定・優良品種決定基本調査）

目的：水稻品種開発において、用途に応じた品種を迅速に提供するため、育成系統の地域適応性を評価する。

2) 優決（水稻）（水稻優良品種決定現地調査）

（昭和 29 年～継続、經常（各部））

目的：有望品種・系統の道南現地における適応性を明らかにし、優良品種決定の資とする。

3) 水稻新品種普及促進事業

（昭和 41 年～継続、經常（各部））

目的：新品種の普及を促進するため、優良品種候補の有望系統について、種子の増殖を行う。

〔畑作物の地域適応性検定試験関連〕

4) 大豆優決基本相当

（平成 13 年～継続、經常）

目的：試験機関で育成した有望系統について、その生産力並びに主要特性を検定し、優良品種決定の資とする。

5) 小豆優決基本相当

（平成 13 年～継続、經常）

目的：試験機関で育成した有望系統について、その生産力並びに主要特性を検定し、優良品種決定の資とする。

6) 優決（大豆）

（昭和 29 年～継続、經常（各部））

目的：有望系統の道南現地における適応性を明らかにし、優良品種決定の資とする。

7) 優決（小豆）

（昭和 46 年～継続、經常（各部））

目的：有望系統の道南現地における適応性を明らかにし、優良品種決定の資とする。

8) 小豆における食味評価法確立と加工適性に優れる高温適応性系統の選抜強化

(1) 高温条件に適応する有望系統の現地選抜試験

（令和 4 年～6 年、公募（その他）、十勝、虎屋と共同）

目的：温暖な道南地域における現地選抜試験を実施し、高温条件下で高い生産性を発揮する系統を選抜する。

9) 虫媒受粉制御とゲノミック予測の融合によって新規育種素材を創出する大豆循環選抜育種法の開発

(1) 雄性不稔系統を利用した循環選抜の試行

（令和 4 年～6 年、公募（イノベ強化）、中央、十勝、農研機構、筑波大、東大と共同）

目的：循環交配集団の養成のため、最も循環交配の回数が多い 1 集団について、道南農試の温室等で 3 世代/年の世代促進を行う。

10) 新農業資材の実用化試験

(1) 水田除草剤実用化試験

（昭和 34 年～継続、民間受託）

目的：新除草剤による除草効果及び水稻の生育収量に及ぼす影響について検討し、今後の除草体系確立の資とする。

〔病虫関連〕

11) 農作物病虫害生理障害診断・緊急対策試験

(1) 病虫害および生理障害の診断

(2) 突発病虫害の緊急対策試験

（令和 2～6 年 經常、生産技術グループと共同）

目的：突発的に発生する病虫害や生理障害の診断、病虫害の薬剤抵抗性遺伝子有無確認を迅速かつ正確に行う。これに加えて、重要な突発病虫害に対しては緊

急の対策試験を実施し、生産現場に対して対応策を速やかに提供する。

12) 有機栽培を志向する醸造用ぶどうにおける重要害虫に対する被害抑制技術の開発

(令和 6～9 年、経常(各部)、中央農試と共同)

目的：有機栽培を志向する醸造用ぶどう園で防除が困難となっている害虫種の発生生態および収量等への影響を解明するとともに、できるだけ化学合成農薬に頼らない被害抑制技術を開発する。

13) 合成超音波によるチョウ目害虫防除技術の確立

(令和 5～7 年、経常(各部))

目的：レタスおよびスイートコーンにおいて、チョウ目害虫に対する合成超音波の有効範囲と気象条件による音圧の変動を明らかにして、有機栽培や特別栽培で活用できる合成超音波によるチョウ目害虫防除技術を確立する。

14) 捕食者コウモリとの相互作用を活用した植物保護

(令和 4～6 年、公募(科研費)、農研機構と共同)

目的：スイートコーンほ場において、合成超音波のアワノメイガに対する有効範囲及び被害抑制効果を検証する。

15) 北海道の小豆におけるマメノメイガ緊急防除対策

(令和 6～7 年、公募(その他)、中央農試、北見農試と共同)

目的：小豆のマメノメイガについて、発生生態を明らかにするとともに、無処理と比較して被害率が 7 割減になるような薬剤防除法を確立する。

16) 病害虫発生予察調査

(1) 水稻病害虫発生予察定点調査

(2) 畑作病害虫発生予察定点調査

(3) 園芸作物病害虫発生予察定点調査

(昭和 19 年～継続、道受託)

目的：植物防疫法に基づいて病害虫の発生予察法の確立を図るとともに、病害虫防除所と連携して発生予察情報を関係機関に提供して病害虫防除の適正化を図る。

17) 新農業資材の実用化試験

(昭和 45 年～継続、民間受託)

目的：新殺菌剤および殺虫剤の病害虫に対する防除効果および薬害を検討する。

3. 地域農業技術支援会議の活動

1) 設置趣旨

農政の大きな転換と農業・農村に対するニーズの多様化が進み、農業政策も地域の自主性や創意工夫を重視する方向へと変化し、地域課題も一層高度化・多様化している。このような中で、渡島総合振興局及び檜山振興局管内の農業及び農業関連産業が直面する課題に試験研究と普及組織、振興局行政が迅速かつ的確に対応するため、地域農業を支援する推進体制として、「渡島地域農業技術支援会議」並びに「檜山地域農業技術支援会議」を設置している。

2) 渡島地域農業技術支援会議

(1) 代表者会議

①日時：令和 6 年 6 月 13 日、令和 7 年 1 月 28 日

②場所：渡島農業改良普及センター

③参集：総合振興局、農業改良普及センター、ホクレン函館支所

④内容：プロジェクト課題の進捗状況と取りまとめ報告、運営方法、年間スケジュール、事務局およびプロジェクト会議等の開催状況、次年度要望課題への対応指針、要望課題の把握方法等。

(2) 地域関係者会議

①日時：令和 7 年 3 月 11 日

②場所：北斗市農業振興センター

③参集：総合振興局、農業改良普及センター、管内市町、JA、ホクレン函館支所、指導農業者

(3) 事務局会議およびプロジェクト課題活動等

事務局会議 3 回、要望課題およびプロジェクトにかかる会議 2 回、プロジェクト調査 9 回。

(4) 渡島農業関係業務連携会議

①日時：令和 6 年 6 月 13 日

②場所：渡島農業改良普及センター

③参集：総合振興局、農業改良普及センター、ホクレン函館支所

3) 檜山地域農業技術支援会議

(1) 代表者会議

①日時：令和 6 年 6 月 4 日、令和 7 年 2 月 17 日

②場所：檜山農業改良普及センター、檜山振興局

③参集：振興局、農業改良普及センター、ホクレン函館支所

④内容：プロジェクト課題の進捗状況と取りまとめ報告、運営方法、年間スケジュール、事務局およびプロジェクト会議等の開催状況、次年度要望課題への対応指針、要望課題の把握方法等。

(2) 地域関係者会議

①日時：令和7年3月14日

②場所：檜山農業改良普及センター

③参集：振興局、農業改良普及センター、管内町、JA、農業士、ホクレン函館支所

(3) 事務局会議およびプロジェクト課題活動等

事務局会議3回、要望課題掘り起こし2回。

(4) 檜山農業関係業務連携会議

①日時：令和6年6月4日

②場所：檜山振興局

③参集：振興局、農業改良普及センター、ホクレン函館支所

V 試験研究成果の公表

1. 技術普及に移された成果

令和6年度北海道農業試験会議(成績会議)において、当年度とりまとめた試験成績について、普及、研究、行政に提供される事項が決定された。そのうち、当場が担当または分担した提出課題は次のとおりである。

1) 普及奨励事項

該当無し

2) 普及推進事項

該当無し

3) 指導参考事項

(1) 北海道耕地土壌の理化学性と炭素貯留量の2023年までの推移

道内耕地土壌では、心土がち密な地点、低pH・ケイ酸不足の地点、交換性カリや有効態リン酸が基準値を超える地点が依然として多いものの推定減肥可能量は減少した。30cm深土壌炭素貯留量は平均111.2 t/haで、泥炭土での減少傾向が伺われた。全道耕地面積114万haでは4.8億t-CO₂と推定され、堆肥施用による炭素貯留効果は高かった。

(2) ブロッコリーに対する育苗培土「軽量ポットエース」のセル育苗適応性

「軽量ポットエース」は播種時かん水後の培土水分の推移が対照資材と同等で、出芽率や根鉢形成も同等であった。また、「軽量ポットエース」は無機態窒素量が多いことから、苗の地上部生育量および窒素吸収量が対照培土に優り、生育の進みが早かった。

(3) 令和6年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫

令和6年度に実施した病害虫発生予察調査から、多発傾向にあった病害虫として11病害虫を示した。また、令和7年度に特に注意を要する病害虫として3病害虫について防除指導上の注意を喚起する。さらに、令和6年度に新たに発生を認めた病害虫として12病害虫(病害4、害虫8)を示した。

(4) 新農業資材

道南農試で試験を実施した水稻除草剤5剤、殺虫剤5剤、殺菌剤3剤を指導参考事項とした(薬剤名省略)。

4) 研究参考事項

該当無し

2. 論文、資料および刊行物

1) 研究論文

論文名	学会誌名	巻号数	ページ	著者名
<i>Rhizoctonia solani</i> AG-2-1・Subset1によるハウレンソウ株腐病の発生	北日本病害虫研究会報	75	1-5	三澤知央(道南作病)、 角野晶大(ホクサン株式会社)
<i>Rhizoctonia solani</i> AG-2-1・Subset1によるネギ苗立枯病の発生	北日本病害虫研究会報	75	6-10	三澤知央(道南作病)、 角野晶大(ホクサン株式会社)

2) 口頭発表

発表名	発表学会等名	開催地	開催時期	発表者名（所属）
2023 年 5 月に北海道奥尻島で発生したブドウ晩腐病について	日本植物病理学会 北海道部会	札幌市	10/13	三澤知央（道南作病）、黒川晃次（道南技術普及課農研本部駐在）
アルストロメリアにおける赤色LEDによる長日処理が採花本数および切花品質に及ぼす影響	北海道園芸研究談話会	札幌市	12/ 2	菅原魁人（道南技術）
アルストロメリアにおける赤色LEDによる長日処理が採花本数および切花品質に及ぼす影響	北海道花き懇話会	札幌市	12/ 3	菅原魁人（道南技術）
北海道の水稲品種において初期生育時の茎葉重が耐倒伏性の指標となる可能性	令和 6 年度日本育種学会・日本作物学会 北海道談話会	WEB	12/7	丸田泰史（道南作病）
異なる光質の照射がカーネーションの花芽分化およびDcFT1 発現に及ぼす影響	園芸学会春季大会	神奈川県	3/20-21	水野有梨 1・松前開斗 1・古山真一 2*・菅原魁人 3・八木雅史 4・宇野雄一 5・薦田優香 1・森 志郎 1 （1 酪農学園大農食環境学群，2 上川農試，3 道南農試，4 農研機構野花研，5 神戸大院農学研究科，*広島県立大生物資源科学部）
北海道における秋まき小麦赤さび病の発生推移と気象の関係解析	日本植物病理学会大会	高松市	3/26-28	池田幸子（道南農試）

3) 専門雑誌、著書・資料

①研究報告書

公表成果名	雑誌名	号数	ページ	著者名（所属）
「無加温パイプハウスを利用した北海道における葉根菜類周年生産技術の開発」成果集 第四節 冬野菜の病害	北海道立総合研究機構 農業試験場資料	45 号	63-68	三澤知央（道南作病）

②雑誌

公表成果名	雑誌名	号数	ページ	著者名（所属）
タマネギの菌糸腐敗病菌による苗立枯症状について	植物防疫	5 月号	34-38	池田幸子（道南作病）
北海道の野菜づくり 第 2 章 にら	ニューカントリー	秋季臨時増刊号	151-152	菅原魁人（道南技術）
北海道の野菜づくり 第 5 章 ブロッコリー	ニューカントリー	秋季臨時増刊号	230-234	菅原魁人（道南技術）
労力削減！ブロッコリー栽培 直播ポイントと留意点	ニューカントリー	3 月号	16-18	菅原魁人（道南技術）

③書籍 該当無し

④新聞 該当無し

4) 印刷刊行物

(1) 令和 5 年度 北海道立総合研究機構道南農業試験場年報（令和 6 年 8 月、29 頁、HP 公開）

VI 研修及び技術支援

1. 研修の受け入れ

該当無し

2. 技術支援

1) 技術相談

項 目	件 数
電話・メール・来場によるもの	73件
	内訳 電話35件、メール23件、来場14件、現地1件
病虫害診断・生理障害診断(分析等)に基づくもの	41件
	内訳 ・診断別：病害20件、虫害13件、生理障害4件、その他不明4件 ・作目別：野菜20件、花き3件、果樹2件、畑作15件、稲作1件

2) 技術指導

名 称	相手方	月 日
ねぎ苗の生育不良について	渡島農業改良普及センター	5月1日
ゆりの病害について	七飯町生産者	5月28日
ばれいしょ種いものカビの発生について	檜山農業改良普及センター 檜山北部支所	6月3日
洗浄後だいこんの肌の黒いしみと陥没について	渡島農業改良普及センター	6月13日
選別出荷ライン内の害虫発生について	渡島農業改良普及センター	6月11日
キャベツ外葉の黄斑点について	生産技術G	5月28日
ハウスはくさいの根こぶ病要因について	渡島農業改良普及センター	6月18日
ネギ外葉の枯死と楕円形病斑について	生産技術G	7月1日
バレイショ茎部の倒伏、枯死について	檜山農業改良普及センター	7月2日
だいこん根部表面の傷・亀裂・腐敗について	檜山農業改良普及センター 檜山北部支所	7月8日
バレイショ上位葉の黒い斑点と一部黄化について	檜山農業改良普及センター 檜山北部支所	7月8日
トマトの株元の腐敗と茎えそについて	生産技術G	7月9日
ガーベラ花卉の1mm程度の細長い卵と幼虫について	渡島農業改良普及センター	7月9日
函館市の醸造用ぶどうの上位葉の食害について	渡島農業改良普及センター	7月18日
厚沢部町、江差町の小豆虫害について	檜山農業改良普及センター	7月22日
ブドウ果実の斑点について	七飯町生産者	7月24日
トウモロコシ茎中の蛹とその対策について	北斗市生産者	7月29日
トマト3段目以降の、葉の縮葉、黄化症状について	渡島農業改良普及センター	7月22日
ねぎ外葉の枯死、地際部の腐敗について	檜山農業改良普及センター 檜山北部支所	7月25日

名 称	相手方	月 日
ダイコン細根部のネコブについて	檜山農業改良普及センター 檜山北部支所	7 月 25 日
ネギの外葉枯れについて	生産技術G	7 月 29 日
トマト未熟果の円状退色症状について	檜山農業改良普及センター 檜山北部支所	7 月 31 日
トマトの食害痕について	渡島農業改良普及センター	8 月 2 日
ネギの外葉枯死について	檜山農業改良普及センター 檜山北部支所	7 月 25 日
大豆茎葉の中位葉の萎れ、落葉について	檜山農業改良普及センター	8 月 13 日
今金町小豆ほ場の害虫について	檜山農業改良普及センター 檜山北部支所	8 月 15 日
秋まき小麦上位葉の黒い斑点について	檜山農業改良普及センター 檜山北部支所	7 月 9 日
秋まき小麦の葉枯れ症状について	檜山農業改良普及センター 檜山北部支所	7 月 9 日
水田の水口側を中心に一斉に発生した上位葉斑点について	作物病虫G	8 月 6 日
えだまめの莢が大きくなり、茶色く枯死する症状について	渡島農業改良普及センター	9 月 2 日
ミニトマト上位葉の食害痕について	北斗市生産者	9 月 25 日
パールミレットのいもち病症状について	渡島農業改良普及センター	10 月 2 日
ながねぎの虫害について	渡島農業改良普及センター	10 月 15 日
収穫期さつまいものつるおよび地上部枯死症状について	函館市生産者	10 月 16 日
アルスプラウト機器の組み立てについて	七飯町生産者	5 月 2 日
アルスプラウト初期設定について	七飯町生産者	5 月 29 日
アルスプラウト機器の組み立てについて	七飯町生産者	6 月 4 日
アルスプラウトの動作不能について	北斗市生産者	7 月 1 日
アルスプラウトの警報機能について	渡島農業改良普及センター	8 月 19 日
クラウドメンテナンス中の機器の動作について	渡島農業改良普及センター	9 月 1 日
単管片屋根ハウスの温度推移について	七飯町生産者	9 月 16 日
制御ノードによるグロウエアの稼働と条件について	七飯町生産者	9 月 21 日
C02 指南番によるグロウエアの稼働と条件について	七飯町生産者	10 月 21 日
キュウリの枯凋症状について	渡島農業改良普及センター	11 月 7 日
バレイショ表皮のブツブツ症状について	檜山農業改良普及センター 檜山北部支所	11 月 12 日
秋まき小麦の黄化症状について	渡島農業普及センター	11 月 19 日
カーネーションの生育異常について	七飯町生産者	11 月 18 日
原原種馬鈴しょの表面陥没症状について	JA 今金町	12 月 12 日
食用ユリ販売球の黒い腐敗症状について	留寿都村生産者	12 月 19 日
タマフクラ採種種子のカビ発生について	渡島農業普及センター	2 月 28 日
統合環境制御盤における SD カードの不良について	七飯町生産者	2 月 3 日

3) 講師等派遣

発表・講演等の名称	講師指名	月日	依頼元	内容
植物病害防除学（北海道大学農学部非常勤講師）	三澤知央	5/15	北海道大学農学部	北海道で発生する水稲・畑作物の病害とその防除方法について講演した。
植物病害防除学（北海道大学農学部非常勤講師）	三澤知央	5/29	北海道大学農学部	北海道で発生する園芸作物（野菜・果樹）の病害とその防除方法について講演した。
ブロッコリー黒すす病の初発確認方法と耕種的防除対策	三澤知央	6/7	桧山農業改良普及センター	ブロッコリー黒すす病菌の診断・防除方法について講演した。
植物病害防除学（北海道大学農学部非常勤講師）	三澤知央	6/26	北海道大学農学部	野菜の糸状菌病害の同定および防除について講演した。
北海道の農業と植物病害の研究	三澤知央	11/13	北斗市立大野中学校	北海道農業の特徴と植物病害の研究について講演した。
気象データを活用したバレイショ疫病初発前薬剤散布システムについて	池田幸子	11/ 5	NPO 農業開発研究会	気象データを活用した新しい疫病予測システムについて講演した。
食用ユリのユリ類黒腐菌核病に対する温湯消毒の効果について	池田幸子	12/12	忠類食用ユリ生産部会	食用ユリにおいて重大な病害である黒腐菌核病に対する温湯消毒の効果について講演した。
渡島の土づくりについて	乙部裕一	2/ 7	渡島4Hクラブ連絡協議会	土壌の生成過程から導かれる土づくりの方法について講演した。
普及指導員普及奨励等新技術研修	乙部裕一	2/ 7	渡島総合振興局	R7年に普及に移す新技術（生産技術部会）について講演した。
紫外光（UV-B）照射を利用したいちご病害虫の減農薬防除技術	青木元彦	2/17	花・野菜技術センター	紫外光（UV-B）を利用した省力・減農薬防除技術セミナーにおいて、平成30年度にとりまとめた成果を中心に講演した。
渡島型輪作プロジェクトセミナー 渡島管内の土壌の特徴と自力で行う土層改良	乙部裕一	2/20	渡島総合振興局	気象変動による降水量増加に対応した排水改良技術を中心に講演した
令和7年に特に注意を要する病害虫	青木元彦	3/11	渡島地域農業技術支援会議	指導参考事項となった新技術について農業支援会議地域関係者会議において講演した。
北海道に向けた新しいりんご品種	三好智明	3/11	渡島地域農業技術支援会議	指導参考事項となった新技術について農業支援会議地域関係者会議において講演した。
令和7年に特に注意を要する病害虫	青木元彦	3/14	檜山地域農業技術支援会議	指導参考事項となった新技術について農業支援会議地域関係者会議において講演した。
コムギ縮萎縮病に強い秋まき小麦新品種「きたほなみR」	三好智明	3/14	檜山地域農業技術支援会議	指導参考事項となった新技術について農業支援会議地域関係者会議において講演した。

3. 参観・視察者対応

視察・見学者名	受入月日	人数
（一社）北海道化学事業創造センター（札幌市）	6月20日	3
新篠津村農業協同組合（新篠津村新米塾）	7月11日	5
ホクレン函館支所（ふっくりんこ産地サミット推進協議会）	7月11日	55
ホクレン倶知安支所、JAようてい	7月19日	5
（株）かさまつ農舎（知内町）	7月22日	2
北海道くみあい肥料・資材普及推進会（札幌市）	9月11日	28
農林水産省北海道農政事務所函館地域拠点	10月2日	1
北海道総務部長	10月8日	4
酪農学園大学土壌環境学研究室	10月10日	6
豊浦町苺耕作組合	11月12日	11
JAあきた北 田代地区支部長会	12月11日	10
ゆうき青森農協 野菜振興会 東北町地区営農センター協議会	12月16日	9
胆振農業改良普及センター東胆振支所	3月17日	4

Ⅶ その他の活動

1. 職員研修

国内研修Ⅱの派遣状況

- ・令和6年度花き研究シンポジウム（1名） R6.10.8～9（つくば市）
- ・日韓植物病理学会合同シンポジウム・日本植物病理学会大会（1名） R7.3.25～28（高松市）

2. 主催事業等

1) 令和6年度農試公開デー

- ①日時：令和6年8月8日（木）13～15時、参加者155名
- ②内容：ア）相談コーナー：家庭菜園・作物栽培、肥料、病害虫診断
 イ）体験：花の染色、お米の食味試験体験、バードコールづくり（林試道南支場）
 ウ）場内見学：イネの品種あれこれ、サツマイモ・ラッカセイの栽培
 エ）展示コーナー：パネル展示、農業機械展示

2) 研究成果発表（道南農試共催）

名 称	開催地 日 時	出席者	内 容
渡島地域農業技術支援会議 令和6年度新技術紹介	北斗市農業振興センター 3月11日	31名	○新技術等の紹介： ・令和7年に特に注意を要する病害虫 ・水稻育苗箱専用肥料を用いた省力的施肥技術 ・北海道に向けた新しいりんご品種
檜山地域農業技術支援会議 令和6年度新技術紹介	檜山農業改良普及センタ ー 3月14日	28名	○新技術等の紹介： ・令和7年に特に注意を要する病害虫 ・水稻育苗箱専用肥料を用いた省力的施肥技術 ・コムギ縞萎縮病に強い秋まき小麦新品種「きたほなみR」

3. 委員会活動

1) 情報システム委員会

①構成：委員長；江原 清（生産技術グループ主査（栽培環境））、委員；乙部裕一（生産技術グループ主任主査（地域支援））、丸田泰史（作物病虫グループ研究主任）、岩崎麻美（作物病虫グループ主任）、石川大樹（総務課技師）、後藤昌人（協力、技術普及室主任普及指導員）

②活動：イントラネットの管理およびホームページの修正および更新（計10回）を行った。主な更新事項は以下のとおり。

- ア 道南農試主催行事等に関するお知らせ
- イ 作況報告
- ウ 道南農試年報の掲載

2) 施設管理委員会

①構成：委員長；藤倉潤治（生産技術グループ研究主幹）、委員；三澤知央（作物病虫グループ研究主幹）、森田哲也（総務課長）、三上幸規（総務課主査（総務））、江原清（生産技術グループ主査（栽培環境））、千田圭一（作物病虫グループ主任主査（作物））、青木元彦（作物病虫グループ主査（病虫））

②活動：令和6年4月15日に第1回施設管理委員会を実施し場内予算を活用した備品購入について協議した。令和7年2月12日に、次年度に向けた備品整備要望および施設整備計画について協議した。

3) 業務委員会

①構成：委員長；三澤知央（作物病虫グループ研究主幹）、委員；竹内達也（作物病虫グループ専門主任）、松原慧（作物病虫グループ研究職員）、菅原魁人（生産技術グループ主査）

②活動：4月から10月の毎週木曜日に業務委員会を開催し、作業計画の立案及び人員の配置等について協議した。水田縮小計画後の圃場の利用指針を策定した。

4) 安全衛生委員会

①構成：議長：藤田眞美子（場長） 委員：三好智明（研究部長）、森田哲也（総務課長）、三上幸規（総務課主査（総務））、藤倉潤治（生産技術グループ研究主幹）、三澤知央（作物病虫グループ研究主幹）、小原広昭（労組支部長、11月まで）、青木元彦（労組支部長、12月から）、竹内達哉（労組推薦）

②活動：毎月1回開催し、安全衛生に関する各取組を実施した。

5) 図書委員会

①構成：委員長；青木元彦（作物病虫グループ主査（病虫））、委員：委員：石川大樹（総務課）、岩崎麻美（作物病虫グループ）、田村 救（生産技術グループ）、後藤昌人（協力、技術普及室主任普及指導員）

②活動：集報等の希望配布のとりまとめ、受け入れ図書・資料の整理を行った。

6) 研修・参観案内委員会

①構成：委員長；三好智明（研究部長）、委員；小原広昭（総務課主任）、藤倉潤治（生産技術グループ研究主幹）、三澤知央（作物病虫グループ研究主幹）、李家眞理（協力、技術普及室上席普及指導員）

②活動：令和6年6月24日に参観案内資料（ほ場配置図、試験概要など）をもとに場員、振興局および普及センター職員で参観案内リハーサル（試験内容の説明）を実施した。

7) 土壌病虫害場内対策検討委員会

①構成：委員長；三好智明（研究部長）、委員；森田哲也（総務課長）、藤倉潤治（生産技術グループ研究主幹）、三澤知央（作物病虫グループ研究主幹）、青木元彦（作物病虫グループ主査（病虫））、竹内達哉（作物病虫グループ専門主任）

②活動：令和6年9月5日に委員会を開催。トマトかいよう病と疑われる個体が発生したH1ハウスについて、発病個体は極わずかで局所的であることから、植物体の適切な処理と土壌消毒の実施により試験の継続を認めることとし、10月の庁内会議で承認された。

8) 場代表連絡員等

(1) 情報システム運営委員

①委員：江原 清（生産技術グループ主査（栽培環境））

②活動：情報システムの運営管理のために、道総研本部および農業研究本部との連絡調整、ウェブアクセシビリティ向上に向けたHPの修正等の業務を行った。

(2) 植物遺伝資源連絡員

①委員：千田圭一（作物病虫グループ主任主査（作物））

②活 動:11/6 に Web 開催。遺伝資源の保存や調査に関する 9 つの事項が報告された。協議事項として農研機構遺伝資源センターからの提案についておよび遺伝資源部で保存している馬鈴しょ遺伝資源の今後の扱いについて協議した。

(3) 北農連絡員

①委 員: 田村 救 (生産技術グループ研究職員)
②活 動: 北農の発行などについて、北農会との連絡調整を行った。

(4) 図書連絡委員

①委 員: 青木元彦 (作物病虫グループ主査 (病虫))
②活 動: 道総研農試報告、集報、資料について、配布希望のとりまとめを行った。

(5) 作況気象連絡委員

①委 員: 千田圭一 (作物病虫グループ主任主査 (作物))
②活 動: 作況報告に用いる道南農試の季節データを「てん蔵」の季節調査票に登録した。

4. 場内研修

研修等名	主な内容	開催日
契約職員研修	契約職員の仕事、給料、休暇等及び農作業安全、ハラスメント等に関する説明	4 月 9 日 5 月 10 日
農作業事故防止呼びかけ	掲示板により事故防止啓発・注意喚起	随時
熱中症注意情報呼びかけ	掲示板により事故防止啓発・注意喚起	夏季間
職場環境測定 (1 回目)	道総研通知に基づく環境測定	10 月 9 日
特別健康診断	農薬散布作業従事者等が受診	10 月 2～6 日
交通安全研修	交通安全全般に係る注意事項等	9 月 5 日
冬道安全運転講習会	北海道の冬道を安全に運転するための心構えや知識	11 月 18 日
健康診断	巡回健康診断受診	11 月 19 日
救急講習	心肺蘇生法や AED の使い方について実習	2 月 6 日
職場環境測定 (2 回目)	道総研通知に基づく環境測定	2 月 27 日

5. 表彰・資格

資 格	取得者名	取得年月
アーク溶接作業主任者	竹内 達哉	令和 6 年 8 月
第一種衛生管理者	江原 清	令和 6 年 12 月

6. 外部委員会等への参加

1) 学会役員・委員

名 称	機関名	氏名
北海道応用動物・昆虫研究会幹事	北海道応用動物・昆虫研究会	青木 元彦
北斗市農業振興対策協議会委員	北斗市	三好 智明
檜山地域農業づくり懇談会委員	檜山振興局	三好 智明
日本植物病理学会 編集委員	日本植物病理学会	三澤 知央
日本植物病理学会 病名委員	日本植物病理学会	三澤 知央
日本植物病理学会 病害診断研究会 幹事	日本植物病理学会	三澤 知央
北日本病害虫研究会 編集委員	北日本病害虫研究会	三澤 知央
生態と防除研究会～植物病害カンファレンス 世話人	生態と防除研究会～植物病害カンファレンス	三澤 知央

- 2) 技術審査 なし
3) 展示会等への出展 なし
4) 研究会の開催 なし

Ⅷ 自己点検

1. 令和6年度計画に係る項目別実績の自己点検結果

リスト No.	項 目	件数等		
		R6	R5	R4
0	各機関へ直接寄せられたニーズ把握件数	0	0	0
1	研究成果発表会・企業向けセミナーの開催件数	0	0	1
2	研究会等の開催件数	0	0	0
3	展示会等への出展件数	0	0	0
4	研究報告書の発行件数	0	1	1
5	技術資料の発行件数	0	1	0
6	その他紙媒体発行件数	0	0	0
7	普及組織との連絡会議等開催件数	14	14	14
8	企業等へ訪問し広報活動した件数	0	0	0
9	行政や企業等で活用された成果の数	0	0	0
12	研究成果発表会・企業向けセミナーによる公表件数	0	3	6
13	研究会における公表件数	1	0	0
14	学会誌等の掲載件数 ①学会誌	2	2	2
14	〃 ②雑誌（専門誌、商業誌）	4	0	5
14	〃 ③書籍	0	0	1
14	〃 ④新聞	0	5	5
14	〃 ⑤その他	0	0	0
15	研究報告書での発表件数	1	0	0
16	学会やシンポジウム等での発表件数	5	13	7
17	電子媒体による公表件数	0	0	0
18	プレスリリース、定例報道懇談会の件数	0	0	0
19	学会役員・委員件数	11	10	3
20	技術相談の件数	73	58	41
21	技術指導の件数	51	70	22
22	講師等派遣の件数	13	10	7
26	研修会・講習会の開催件数	6	1	1
26	〃 参加人数	62	3	4
27	研修者の受入件数	1	0	4
27	〃 受入人数	21	0	27
28	連携協定先との事業の実施件数	0	0	0
29	道関係部との連絡会議等の開催件数	2	2	2
30	市町村との意見交換等の開催件数	1	0	0
31	関係団体との意見交換等の開催件数	0	0	0
32	道民意見把握調査の回答数	97	1	0
33	出前授業の実施件数	1	2	0
35	国内研修Ⅱ外部講師招聘・受け入れ件数	0	0	0
36	国内研修Ⅰの派遣件数	0	0	0
37	国内研修Ⅱの派遣件数	2	3	4
38	道民向けイベントの開催件数	1	1	0
38	〃 延べ来場者数	155	63	0
42	ホームページ発信・更新件数	10	12	9
46	職場研修開催件数	5	4	4
47	安全衛生委員会等開催件数	19	18	17
48	機器設備の点検状況	随時	随時	随時
49	その他職場研修	随時	随時	随時
50	グリーン購入の金額	419	227	164 千円
51	視察・見学者の受入件数	12	13	5
51	〃 受入人数	139	182	28

付表 1. 作物標準栽培法の概要

各試験に共通する水稻、畑作物についての当場の標準栽培法は、下記のとおりであるが、特殊なものについては各試験ごとに記載する。

作物名	栽培方法	苗代種類	選 種	播種期	苗 代 (1 m ²)		
					基肥	追肥	播種量
水 稻	中苗栽培	冷 床	塩水選 (1.06)	4月中下旬	N = 5.6g P ₂ O ₅ =11.1g	N=1g/箱	500g散播
	稚苗栽培				K ₂ O = 9.4g		1kg散播

作物名	栽培方法	施肥量(kg/a)			移植期	畦幅×株間 (cm)	m ² 当 株数	一株 本数	病虫 防除
		基 肥	追肥	同時期					
水 稻	中苗栽培	N = 0.75 P ₂ O ₅ = 0.91	—	—	5月下旬	33×12	25株	3 ～ 4	3回
	稚苗栽培	K ₂ O = 0.61							

備考 除草剤：初中期一発剤フロアブル 50ml/a、後期は発生に応じて適時実施。

堆 肥：100kg/a。

作物名	施肥量(kg/a)					畦幅×株間 (cm)	播種期 (月日)	1株本 数	中耕	除草	防除
	堆肥	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO						
大 豆	0	0.15	1.10	0.75	0.35	60×20	5月下旬	2本	3回	3回	9回
小 豆	0	0.30	1.20	0.70	0.25	60×20	6月上旬	2本	3回	3回	6回

備考 防除：生育の殺菌剤・殺虫剤ののべ防除回数。

附表 2. 土壤の理化学的特性

土壤条件：中粗粒褐色低地土(一部礫質褐色低地土)

(1) 水田

層 厚	国際法粒径組成 (%)					三相分布 (%)			
	粗砂	細砂	シルト	粘土	土性	固相	液相	気相	孔隙率
0～12cm	23.9	40.2	23.3	12.6	L	44.7	45.7	9.6	55.3
～21	19.1	40.3	18.7	21.9	CL	49.2	49.2	3.9	53.1
～35	6.1	37.7	40.2	16.1	CL	49.1	37.4	13.5	50.9

層 厚	pH		T-C (%)	T-N (%)	C/N	Y 1	塩基交換 容 量 (me/100g)	リン酸 吸収 係数
	H ₂ O	KCL						
0～12cm	5.9	4.9	2.2	0.18	12.2	1.0	18.0	846
～21	5.1	4.0	1.2	0.12	9.7	10.2	17.6	742

(2) 畑土壤

層 厚	国際法粒径組成 (%)					容 積 重 (g/100cc)	孔隙率 (%)	有効態 リン酸 (mg/100g)	リン酸 吸収 係数
	粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
0～14cm	12.1	48.4	24.7	14.8	L	129	50.3	45.5	827
～30	0.5	37.6	45.2	16.7	CL	129	49.9	43.5	1374

層 厚	pH		T-C (%)	T-N (%)	C/N	Y 1	塩基交 換容量 (me/100g)	交換性塩基(me/100g)		
	H ₂ O	KCL						Ca	Mg	K
0～14cm	5.3	4.6	2.3	0.19	12.2	3.6	22.5	9.4	1.5	1.0
～30	5.0	5.0	1.0	0.11	9.5	0.7	27.7	18.2	3.5	0.5

令和 6 年度
北海道立総合研究機構
道南農業試験場年報

令和 7 年 6 月

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部道南農業試験場

〒041-1201 北海道北斗市本町 680 番地

TEL (0138) 77-8116

FAX (0138) 77-7347

E-mail donan-agri@hro.or.jp

ホームページ <https://www.hro.or.jp/agricultural/research/dounan/>
